



15歳～79歳の男女10,000人に聞く、「歯科医療に関する一般生活者調査」
歯科医療機関で**歯の定期チェック**をしている人は半数に満たないが
コロナ禍前の2018年に比べ増加

一方で、歯や口の健康と全身の健康に関する理解は低下傾向に

国民を対象とした歯科健診の充実について、約8割が「疾患の早期発見・治療」がメリットと認識

公益社団法人日本歯科医師会（所在地：東京都千代田区九段北、会長：高橋 英登）は、全国の15歳～79歳の男女10,000人を対象に「歯科医療に関する一般生活者調査」を実施しました。本調査は、当会の広報活動の趣旨である「歯科医療に対する国民の認知度・理解度向上」および「歯科医師や診療に対する評価・イメージの向上」に向け、現状の歯科医療を取り巻く環境や生活者の意識を把握し、今後の広報展開に役立てることを目的として、2005年からほぼ隔年に実施しているもので、今回で10回目になります。同調査結果によって、以下のような実態が明らかになりました。

コロナ禍を経験し、予防意識が高まり、定期的なチェックを受ける人が増加

- ◇ 歯科医療機関で「定期的なチェックを受けている（計）」は48.6%、コロナ禍前の2018年（43.4%）より増加。
- ◇ 受診頻度「3カ月に1回以上」59.1%、2018年（35.4%）に比べ20ポイント以上も増加。
- ◇ 定期チェックを受ける理由は「安心できるから」「歯周病やむし歯などの予防ができるから」が上位に。

できるだけ自分の歯を残したい！ 歯を失うとコミュカも失う？

- ◇ 91.9%が「健康のためにできるだけ自分の歯を残したい」。
- ◇ 歯を失うことで歯以外に失うものは「食」「見た目の若さ」だけでなく、「全身の健康」「笑顔」も。
- ◇ 「笑顔」「人との交流」を失うと答えた人が増え、歯を失うことはコミュニケーションに影響する可能性も。

歯や口の健康と全身の健康に関する理解度が低下。若い世代に顕著

- ◇ 91.0%が「健康を維持する上で歯や口の健康は欠かせない」。
- ◇ 健康知識「20本以上自分の歯を保っていればおいしく食べ続けられ、健康長寿につながる」の理解度は40.5%。前回（2022年）・前々回（2020年）から低下傾向が続く。10代（26.6%）、20代（27.0%）の若年層が低い。

歯科健診の充実のメリットは疾患の早期発見・治療。費用負担が不安

- ◇ 全国民を対象とした歯科健診の充実について、全体の83.8%が賛成。
- ◇ メリットのTOP3は、「歯科疾患の早期発見・早期治療」「全身の健康」「おいしく食事することができる」。
- ◇ 全国民対象の歯科健診に対する一番の不安は「費用負担」。受診意向が高まるポイントは、「費用が無料」「どこの歯科医療機関でも受診」。誰もが歯科健診を受けるには費用と場所の対策が望まれる。

「歯科医療に関する一般生活者調査」調査概要

■実施時期 2024年9月11日（水）～9月13日（金） ■調査手法 インターネット調査 ■調査対象 全国の15歳～79歳の男女1万人

* 本調査では、小数第2位を四捨五入しています。そのため、数字の合計が100%および合計値とならない場合があります。

【本件に関するお問い合わせ先】

公益社団法人 日本歯科医師会 広報課 電話：03-3262-9322

日本歯科医師会からのごあいさつと総括

日本歯科医師会は、歯科医療を通して国民の皆様の歯と口の健康を守るための活動をしている我が国の歯科界を代表する公益団体で、国民の皆様が、人生最期の日まで「自分の口でおいしく食べることができるようにすること」を目指しており、それはいくつになっても健康でいられること、すなわち「健康長寿社会の実現」に貢献することでもあります。

本調査は、生活者の「歯や口の中のことに関する意識や行動」「歯や口の中の健康と全身の健康とのつながりに関する理解度」などを継続的に把握することを目的に実施しており、今回で10回目となります。

今回の調査結果によると、歯科医療機関で定期的にチェックを受けている方はまだ半数弱にとどまっていますが、コロナ禍前に比べると、その人数は増えており、頻度も高まり、コロナ禍を経て、皆様の予防への意識が高まり、自発的に定期チェックを受ける人が増えているという実態も明らかになりました。さらに、「健康のためにできるだけ自分の歯を残したい」と考える人は9割を超えています。その一方で、「20本以上の自分の歯を保っていればおいしく食べ続けられ、健康長寿につながる」とや「よく噛んで唾液を出すことで胃腸での食べ物の消化吸収を促進すること」など、「歯や口の中の健康」と「健康長寿」や「全身の健康とのつながり」に関する事柄への理解度がこれまでの調査と比較して下がっており、特に、若い方々にこれらの理解が広がっていないようです。また、今回の調査では、国の骨太の方針2024に「生涯を通じた歯科健診の充実（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた具体的な取組の推進」が明記されているなか、歯科健診の充実についてもご意見をお聞きましたが、8割以上の方が肯定的な受け止めをしており、「歯科疾患の早期発見・早期治療につながる」「全身の健康につながる」ことが期待されていることも分かりました。

日本歯科医師会は、国民の健康増進、健康長寿社会の実現に寄与すべく、個人の自主的な定期チェックの重要性を継続して発信しながら、国民の皆様にとって歯科医療を受療しやすい、より良い環境づくりに努めてまいるとともに、皆様に「おいしく食べて健康長寿」を目指していただけるよう、取り組んでまいりたいと存じます。



公益社団法人
日本歯科医師会
会長 高橋 英登

調査結果の詳細

コロナ禍を経て、予防意識が高まり、定期的なチェックを受ける人が増加

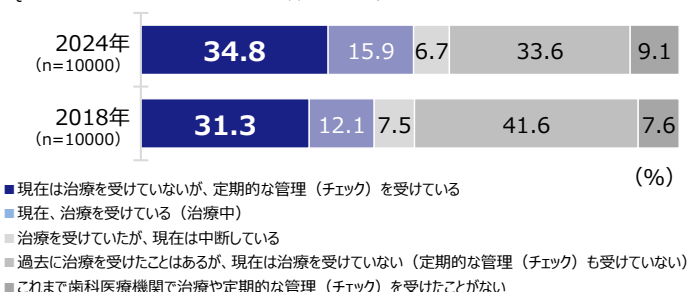
コロナ禍前の2018年に比べ定期チェックを受ける人が増加傾向に

15歳～79歳の男女1万人を対象に歯や口の健康管理に関する調査を行いました。

まず、現在、歯科医療機関で治療や定期的な管理（チェック）を受けているかと聞くと、「現在は治療を受けていないが、定期的な管理（チェック）を受けている」と答えた人が34.8%で、コロナ禍前の2018年（31.3%）と比べ3.5ポイント上昇しています【図1-1】。

【図1-1】 歯の定期チェック・治療の受診状況

Q.現在、歯科医療機関で治療や定期的な管理（チェック）を受けているか？



コロナ禍を経て、予防意識が高まり、定期的なチェックを受ける人が増加

歯の定期チェックを受けている人は48.6%、受診頻度も高めに

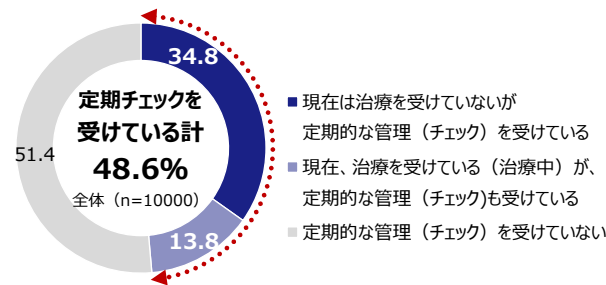
前述図1-1で「定期的な管理（チェック）を受けている」と答えた人に、「現在、治療を受けている」、かつ「定期的な管理（チェック）も受けている」と答えた人を加えると、定期的な管理（チェック）を受けている人の割合は合計48.6%となりました【図1-2】。

これは、2018年の「定期的な管理（チェックを受けている人）」（31.3%）と、「現在、治療を受けている人」（12.1%）の合計（43.4%）と比べ5.2ポイント上昇しており、コロナ禍前と比べ定期チェックを受けている人が確実に増えていることがうかがえます。

また、定期チェックを受けていると答えた4,861人に受けている頻度を聞くと、「3カ月に1回以上」が59.1%、「半年に1回程度」が30.0%で合計した「半年に1回以上」は89.1%となり、2018年（73.9%）に比べ15.2ポイントも上昇しています。特に「3カ月に1回以上」（2018年35.4%→2024年59.1%）が増えており、定期チェックの頻度も高くなっています【図2】。

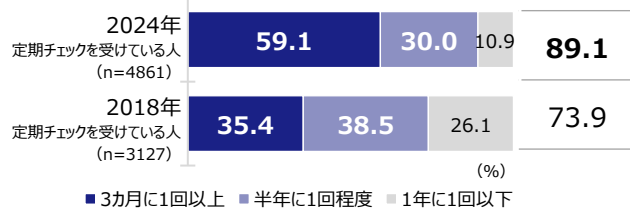
【図1-2】 歯の定期チェックを受けている人（合計、2024年）

Q.現在、歯科医療機関で治療や定期的な管理（チェック）を受けているか？



【図2】 歯の定期チェック受診頻度

Q.どれくらいの頻度で定期的な管理（チェック）を受けているか？

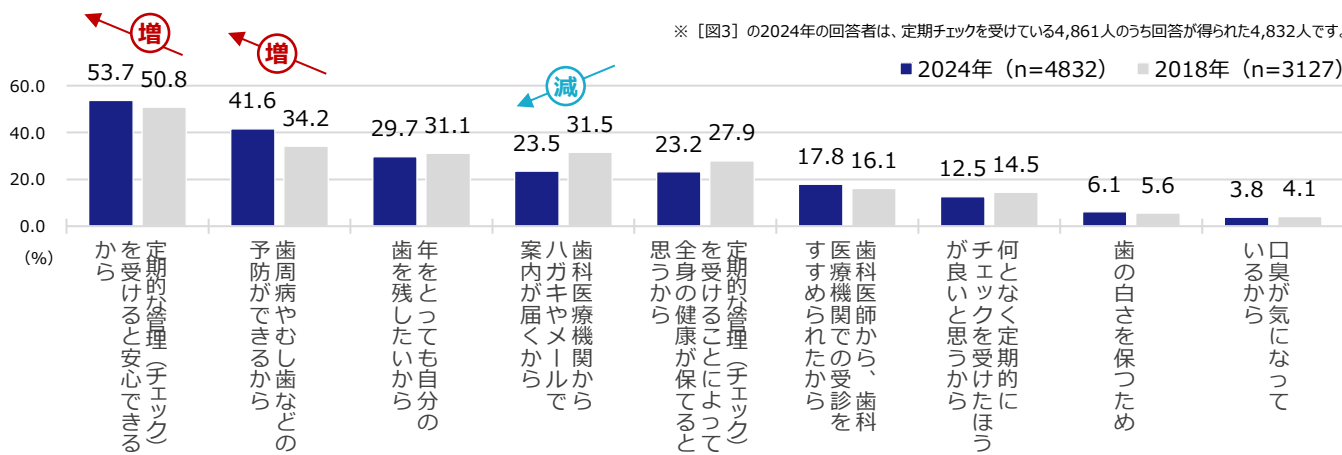


予防意識が高まり、受動的ではなく自発的に定期チェックを受ける人が増えている

定期チェックを受けている人にその理由を聞くと、「定期的な管理（チェック）を受けると安心できるから」（53.7%）、「歯周病やむし歯などの予防ができるから」（41.6%）が上位に挙げられました。2018年の結果と比べると、「安心できる」（2018年50.8→2024年53.7% 2.9ポイント増）や「予防ができる」（2018年34.2%→2024年41.6% 7.4ポイント増）が増加し、「歯科医療機関からハガキやメールで案内が届くから」（2018年23.5%→2024年31.5% 8.0ポイント増）は減少しています【図3】。

【図3】 歯の定期チェックを受ける理由

Q.定期的な管理（チェック）を受けている理由は？（複数回答）



※【図3】の2024年の回答者は、定期チェックを受けている4,861人のうち回答が得られた4,832人です。

できるだけ自分の歯を残したい！歯を失うとコミュカも失う？

10代～70代の国民の9割が「健康のために自分の歯を残したい」

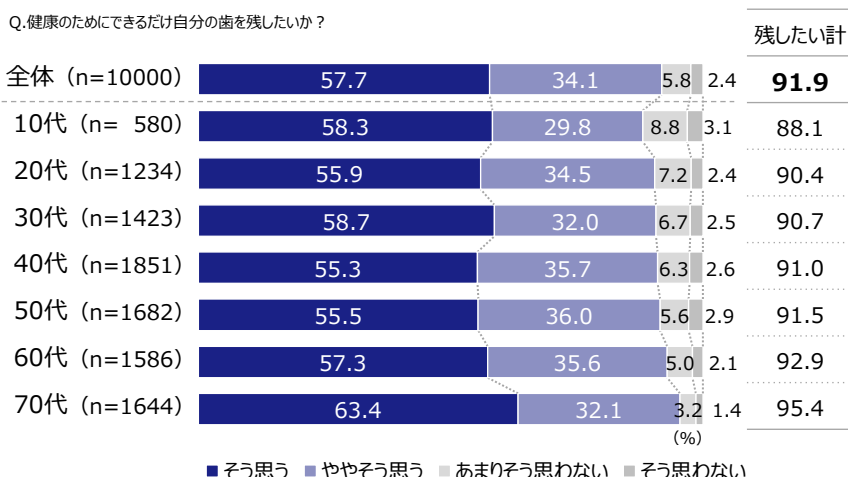
次に、健康のためにできるだけ自分の歯を残したいかと聞くと、91.9%※

（そう思う57.7% + ややそう思う34.1%）が健康のためにできるだけ自分の歯を残したいと考えています。

年代別に見ても、どの世代も多くの人が健康のために自分の歯を残すことを望んでいます【図4】。

【図4】 健康のために自分の歯を残したい

Q.健康のためにできるだけ自分の歯を残したいか？



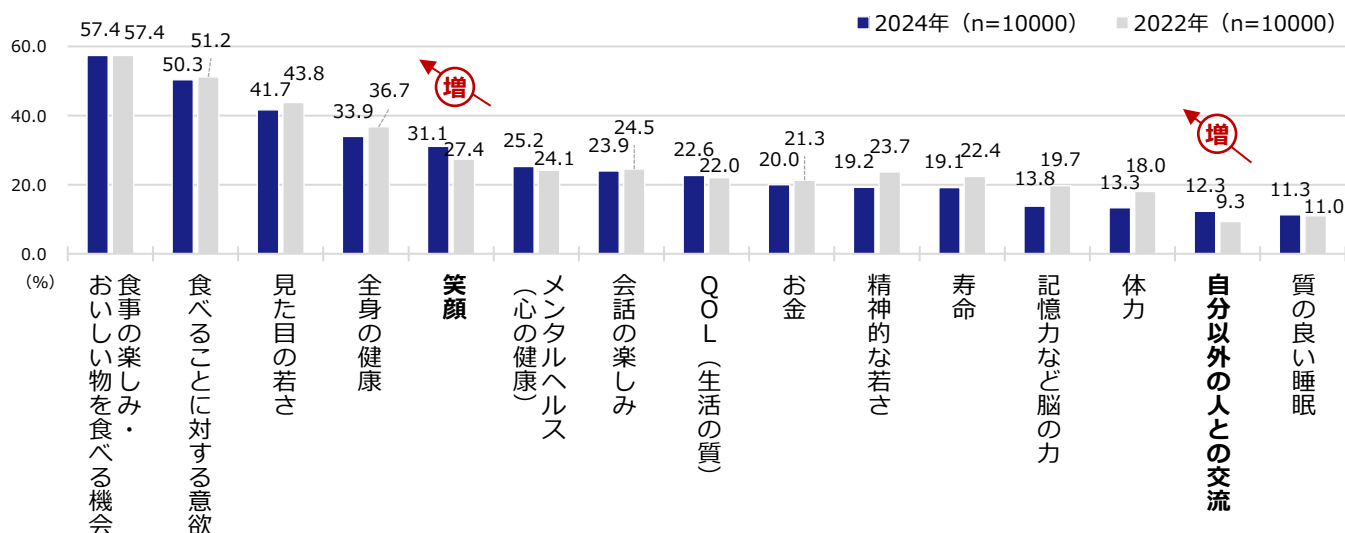
歯を失うことは「食」「見た目の若さ」だけでなく、

「笑顔」「交流」など、コミュニケーション力が失われると感じる人が増えている

歯を失うことで歯以外に失うものは何かと聞くと、「食事の楽しみ・おいしい物を食べる機会」（57.4%）、「食べることに
対する意欲」（50.3%）、「見た目の若さ」（41.7%）、「全身の健康」（33.9%）、「笑顔」（31.1%）が上位に
上がりました。2022年の調査結果と比較すると、「笑顔」（2022年27.4%→2024年31.1%）や「自分以外の人との
交流」（2022年9.3%→2024年12.3%）を挙げる人がやや増え、歯を失うことはコミュニケーションに影響すると考える
人が増えていることがわかります【図5】。

【図5】 歯を失うことで歯以外に失うもの

Q.歯を失う（歯がぬける、なくなるなど）ことによって歯以外に失うものは？（複数回答）



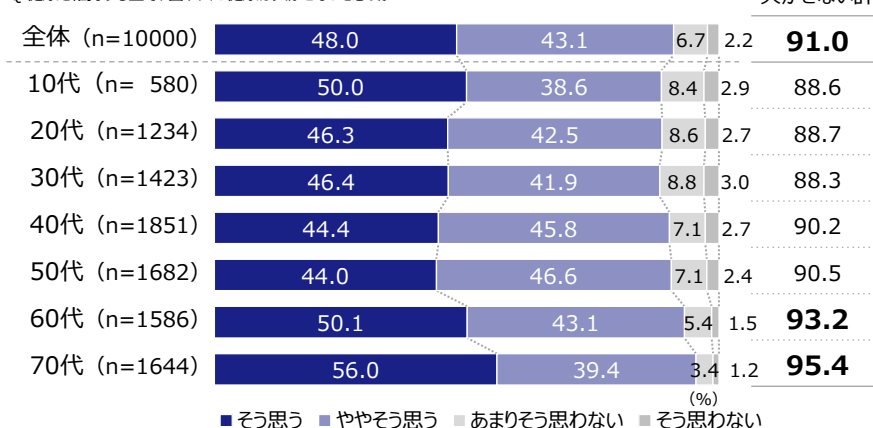
歯や口の健康と全身の健康に関する理解度が低下。若い世代で顕著に

約9割が健康維持の観点からも「歯や口の健康は欠かせない」

健康を維持する上で歯や口の健康は欠かせないと思うかと聞くと、91.0%※（そう思う48.0%+ややそう思う43.1%）が健康を維持するためにも歯や口の健康は欠かせないと答えました。どの世代も、健康維持に歯や口の健康は欠かせないと認識していますが、特に60代以上でそう思う人が多くなっています【図6】。

【図6】健康を維持する上で歯や口の健康は欠かせない

Q.健康を維持する上で、歯や口の健康は欠かせないと思うか？



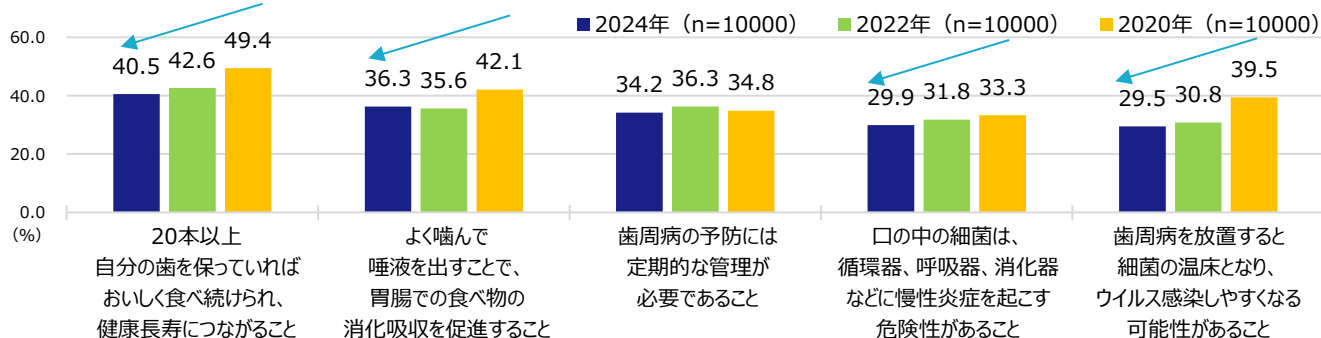
健康維持に欠かせないと認識しているのに、健康知識の理解度は低い

歯や口の健康と全身の健康に関する事柄を提示し、知っているものを尋ねたところ、「20本以上自分の歯を保っていればおいしく食べ続けられ、健康長寿につながる」と「2024年・2020年と比較すると理解度は他の項目も低下傾向で、「歯周病を放置すると細菌の温床となり、ウイルス感染しやすくなる可能性がある」とはコロナ禍の2020年から10.0ポイントも下がっています。

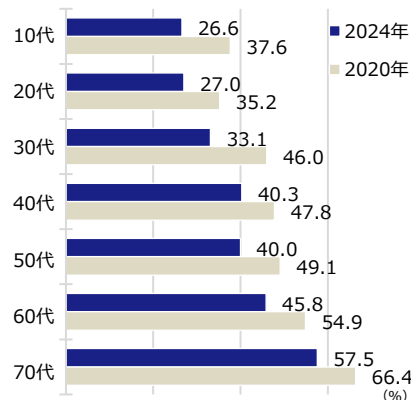
低下率が大きい3項目を年代別で比較すると、3項目とも10代・20代の認知度が低く、2020年と比較すると全世代で認知度が低下しています【図7】。

【図7】歯や口の健康と全身の健康 理解度TOP5

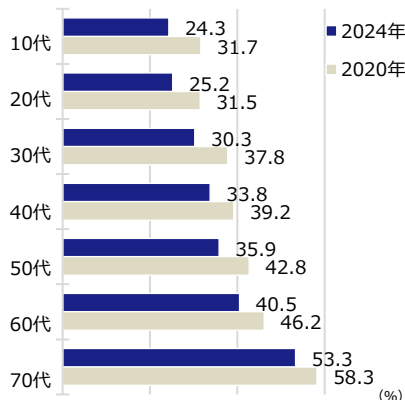
Q.歯・口の健康と全身の健康について、知っていることは？（複数回答）



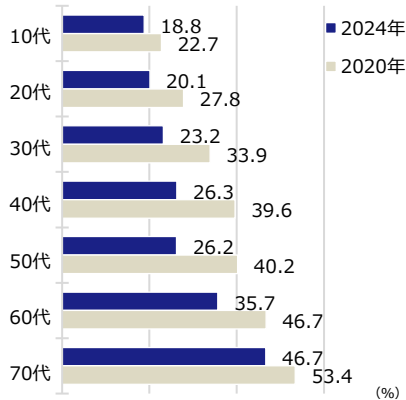
20本以上自分の歯を保っていれば
おいしく食べ続けられ、健康長寿につながる



よく噛んで唾液を出すことで、
胃腸での食べ物の消化吸収を促進すること



歯周病を放置すると細菌の温床となり、
ウイルス感染しやすくなる可能性があること



歯科健診の充実のメリットは疾患の早期発見・治療。費用負担が不安

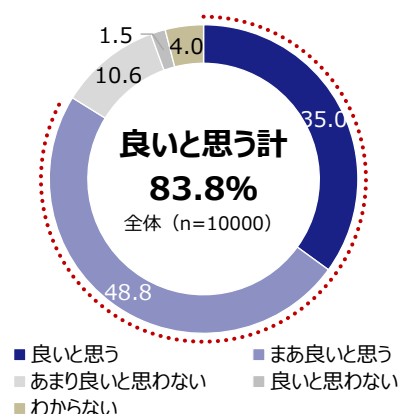
「歯科健診の充実」に8割以上が賛成 「歯科疾患の早期発見・早期治療」が一番のメリットに

丈夫な歯を維持することによって心身機能の低下や病気の誘発を防ぐことを目指し、2022年に政府の「骨太の方針」に生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の検討が盛り込まれ、2024年の「骨太の方針」にはその具体的な取り組みの推進が明記されました。

歯科健診の充実についてどう思うかと聞くと、83.8%（良いと思う35.0%+まあ良いと思う48.8%）が賛成しています【図8】。歯科健診が充実するメリットを聞くと、「むし歯や歯周病等の歯科疾患の早期発見・早期治療」（76.1%）が最も高く、次いで「全身の健康につながる」（46.6%）、「おいしく食事することができる」（45.8%）等が挙げられました【図9】。

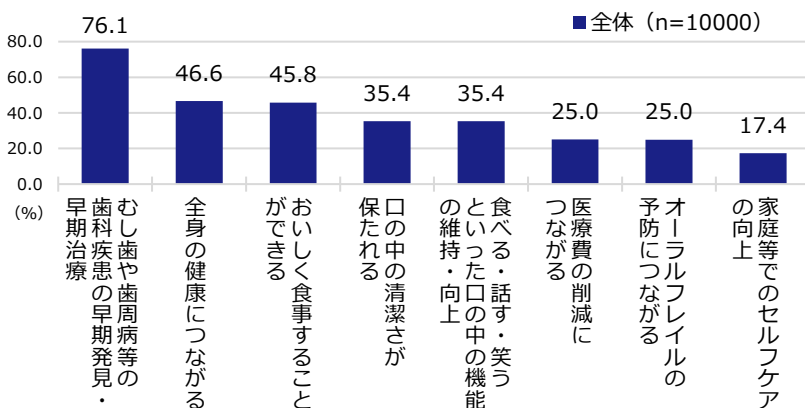
【図8】 歯科健診の充実について

Q.今後、歯科健診が充実することに対してどう思うか？



【図9】 歯科健診を充実するメリット

Q.歯科健診が充実することのメリットは？（複数回答）

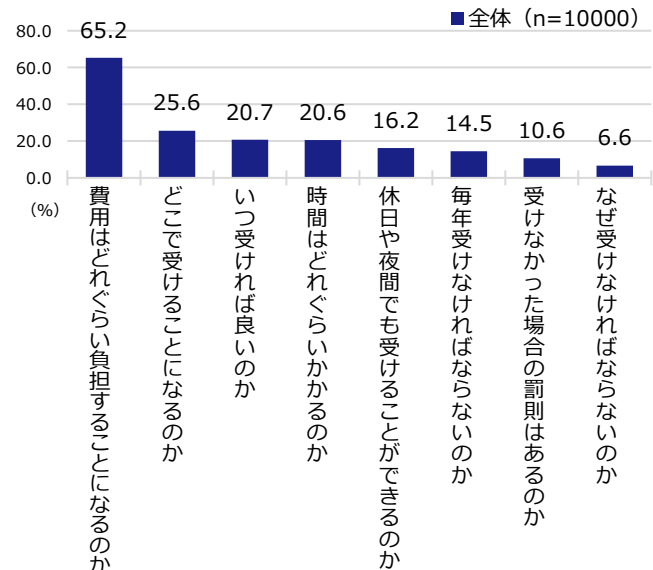


国民皆歯科健診の実施で不安なことは「費用負担」

全ての国民を対象とした歯科健診が実施された場合の不安点を聞くと、「費用はどれぐらい負担することになるのか」が65.2%と最も高く、次いで「どこで受けることになるのか」（25.6%）、「いつ受ければ良いのか」（20.7%）、「時間はどれぐらいかかるのか」（20.6%）が気になっているようです【図10】。一方、どのようなことが整備・改善されると歯科健診を受けたいかと聞くと、「無料であれば」が50.5%と最も高く、次いで「どこの歯科医療機関でも受診できれば」（40.4%）、「職場や学校などで受診できれば」（26.2%）の順となりました【図11】。歯科健診の充実に向けては、無料で受けられること、受診しやすい場所で受けられることが望まれています。

【図10】 国民対象の歯科健診実施に対する不安点

Q.仮に全国民対象の歯科健診が実施された場合、不安点は？（複数回答）



【図11】 歯科健診の受診意向が高まるポイント

Q.どのようなことが整備・改善されると、歯科健診を受ける意向が高まるか？（複数回答）

